令和６年９月４日

令和６年度　ミニトマト（アンジェレ）技術情報 No. 6

大船渡農業改良普及センター
電話:0192-27-9918　FAX:0192-27-9936

- **台風の事前・事後対策を徹底しましょう。**
- **主枝摘心や摘葉を適期に実施し、果実肥大や着色を促進しましょう。**
- **葉かび病、すすかび病、灰色かび病の防除を継続しましょう。**

1　台風対策

9月は台風シーズンであり、８ 月に引き続き、台風の発生が続く可能性があります。台風通過前に、ハウス等のほ場周囲の明きょや排水溝の補修を行うなど、排水対策を再度確認しましょう。

また、ハウスビニールの破れ、ハウスバンドの緩みの確認などを行い、必要な補修・補強を行いましょう。

台風通過後は、**ほ場にたまった水はただちに排水**し、長時間滞水しないように努めます。**灰色かび病、疫病**が発生しやすくなりますので、防除暦を参考に薬剤散布を実施しましょう。

2　栽培管理

（１）かん水

９月は、２本仕立てで**1日に1株当たり2～3L** を目安とします（１本仕立ての場合は、１～1.5L/株）。

（２）追肥

栽培後半の過剰な追肥は、果実の品質低下、土壌の塩類集積の原因になります。

追肥は、**収穫打ち切り予定日の2か月前を目安に、終了**

（３）主枝摘心

主枝摘心は果実肥大を促進する効果があります。

収穫打ち切り予定日から2か月前（最終花房の開花期）を目安に、**開花直前の花房の上の葉2枚を残し、一斉に主枝摘心**しましょう。

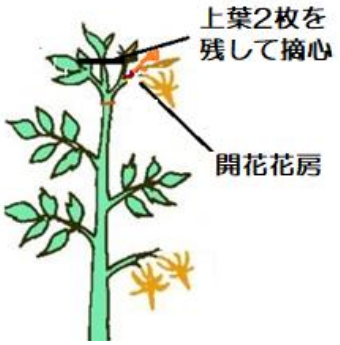

図１　主枝摘心の方法

（４）摘葉

夜間ハウスを閉め切る時期（９月下旬）までに、下葉を最低 60cm 以上摘葉しましょう。マルチに光が当たり地温を上昇させる効果があります。

（5）病害虫防除

９月は、**葉かび病**、**すすかび病**、**灰色かび病**の発生に注意が必要です。オレンジアンジェレでは葉かび病、TY アンジェレではすすかび病が発生しやすいです。表１を参考に、各品種に合わせた防除を実施してください。

管内では、**オオタバコガ**の発生が増加していますので、防除暦を参考に定期防除や特別散布を行いましょう。

新規害虫「**トマトキバガ**」の発生が管内でも確認されていますので、注意しましょう。発生の疑いがある場合は JA または普及センターに相談してください。

表１　特別散布農薬一覧

薬剤	使用時期	希釈倍数	使用回数	灰色かび病	葉かび病	すすかび病	備考
カスミンボルドー	収穫前日まで	1,000倍	5 回以内		◎		
ベジセイバー	収穫前日まで	1,000倍	2 回以内	○	○	●	注）SDHI剤 アミスターオプティフロアブルと同成分を含む、合わせて 2 回以内。 アフェットフロアブルと同成分を含む、合わせて 3 回以内。
ファンタジスタ顆粒水和剤	収穫前日まで	3,000倍	3 回以内	◎※	◎※	●	注）QoI剤
アミスターオプティフロアブル	収穫前日まで	1,000倍	2 回以内	◎※	◎※	●	注）QoI剤 ベジセイバーと同成分を含む、合わせて 2 回以内。
ニマイバー水和剤	収穫前日まで	1,000倍	3 回以内	○	△	●	ゲッター水和剤と同成分を含む、合わせて 3 回以内。

注）QoI剤、SDHI剤は、耐性菌発生リスクが高いので年 2 回以内の使用とする、連用、止め散布には使用しない。
令和 6 年 8 月 7 日の農薬登録情報に基づいて作成。
農薬の使用は、必ず容器のラベルで使用基準（適用作物、単位面積当たりの使用量や希釈倍数、使用時期、有効成分の種類ごとの総使用回数）や注意事項を確認し、農薬使用者が責任を持って使用すること。
適用病害虫に対する防除効果について、農業研究センターが判断できるものを、◎：優れる　○：有効　△：劣ると示している。
●は、作物登録および当該害虫への適用があるものを示している。
※は、当該薬剤と病害の組合せにおいて同一薬剤又は同系薬剤の連用によって耐性菌を生じやすい薬剤であることを示している。

★いわてアグリベンチャーネット URL: https://www.pref.iwate.jp/agri/i-agri/
岩手県からのお知らせに加えて、農業技術情報や病害虫に関する情報、各地域の情報など盛りだくさんです。ぜひご覧ください！！